



MediBic

株式会社メディビックグループ°

第7期 || 報 告 書
2006.1.1 ▶ 2006.12.31

新たなグループ経営体制に移行し安定的な企業成長へ

個の医療の実現に向けた新サービスの提供開始

当社グループは、2006年1月に公表した中期経営計画に基づき、同年7月3日をもって純粋持株会社体制へ移行いたしました。これにより、グループ全体の経営効率化や経営資源の配分をより効果的に行えるようになりました。また、変化の速い業界の中でグローバル規模の競争を勝ち抜くために、企業体質を変革し安定的な成長と一層のスピード経営を目指しています。

また、当社グループでは、個の医療（＝テーラーメイド医療、個別化医療）の実現を促進する新たなサービスを始めました。近い将来、規制当局が医薬品開発を行う製薬企業に対し承認申請資料に遺伝子情報（PGx情報）を求めてくる可能性があることをいち早く捉え、その支援ができる体制を整えました。具体的には、遺伝子解析を伴う臨床試験、すなわちファーマコゲノミクス（PGx）試験における、実施方法から各種書類の準備・申請まで全てを総合的・戦略的に支援できる「PGxトータルソリューションサービス」の提供をし始めました。

個人の体質に合った安心して安全に受けられる「個の医療」の世界がまた一歩近づいてきています。

持株会社制への移行を完了 連結売上高過去最高に

- 持株会社制へ移行（2006年7月）
- 連結売上高16.5億円を達成
（前年比較121.8%増収）

■ 株式会社メディビックグループ

- アネクサス・ファーマシューティカルズ・インク
- 上海事務所

■ 株式会社メディビック

- 関西ラボ

≫ バイオマーカー創薬支援事業

■ 株式会社メディビックファーマ

≫ 創薬事業

■ 株式会社メディビック・アライアンス

≫ 投資・投資育成事業

バイオマーカー創薬支援事業

個の医療の実現に不可欠な、バイオマーカーを用いた創薬を総合的に支援する同事業では、医薬品開発のPGx試験を総合的に支援できるサービスの提供を始めました。また、当社の開発した基盤技術が採用された、遺伝子発現解析ソフトArrayAssist®が、DNAチップの世界最大シェアを持つ米国・アフィメトリクス社のチップに対応する解析用ソフトとして認定されました。

- 2006. 3 遺伝子発現解析ソフトArrayAssist® 国内独占販売権獲得
- 2006. 6 脂質代謝解析サービス開始
- 2006. 7 持株会社制の移行に伴う会社分割により、事業子会社 (株)メディビックを設立
- 2006.11 PGxトータルソリューションサービス本格稼動
- 2007. 1 アフィメトリクス・ジャパンとPGx試験協同支援サービスを開始

Business Highlight I » P3~6

創薬事業

主に抗がん剤グルフォスファミド (GLFS) の国内臨床試験を進めている同事業では、2007年1月に国内第I相臨床試験を開始しました。グルフォスファミドは、海外ではパートナー企業であるスレッシュホールド社によりこれまでのすい臓がんに加え、卵巣がんや肺がんを対象とした臨床試験も始められています。

- 2006. 3 事業子会社 (株)メディビックファーマを設立
- 2006. 6 (米国) GLFS 第Ⅲ相臨床試験でIDMCから継続推奨される
- 2006. 9 (米国) GLFS FDAから希少疾病用医薬品指定を受ける
- 2006.12 (米国) GLFS ゲムシタピンとの併用試験 (第Ⅱ相) の結果発表
- 2007. 1 GLFS 国内第I相臨床試験を開始
- 2007. 1 (米国) GLFS プラチナ製剤抵抗性のある卵巣がん及び再発小～2 細胞肺がんを対象とした第Ⅱ相臨床試験を開始

Business Highlight II » P7

投資・投資育成事業

2006年に国内外投資先4社が上場するなど高いリターンを実現しました。さらに積極的にプライベート・エクイティ事業 (未公開企業投資) を展開しており、特に韓国・中国においては強力なネットワークを構築し、有望な投資先を発掘し、投資・事業育成を行いました。こうした実績を活かし、M&Aアドバイザリー等も受注しました。

- 2006. 1 投資先 Crystal Genomics,Inc. がKOSDAQに上場
- 2006. 6 投資先 (株)リンフォテックの株式の一部を韓国Innocell社に売却
- 2006. 9 投資先BHK,Inc. が合併により韓国証券取引所に上場
- 2006.10 投資先 (株)ファンドクリエーションがJASDAQに上場
- 2006.11 韓国VCファンドの投資先 Digital Genomics,Inc. を既上場企業KBC社が買収。株式交換により所有株式の売却が可能に

Business Highlight III » P8

バイオマーカー創薬支援事業の基盤強化から拡充へ

テラーメイド医療、テラーメイド創薬®の実現に不可欠なソリューションサービスが本格化

バイオマーカー創薬支援事業を行うメディビックは、テラーメイド医療・テラーメイド創薬®の実現を目指し、遺伝子情報処理技術から始まったインフォマティクス事業とコンサルティング事業を統合化し、“技術とサービスの総合的支援：トータルソリューションサービス”の強化を推進してまいりました。

技術革新が早い分野のため、いかに、最新の情報を手に入れ、有益な情報を選別し、組み合わせ、具体的な形に落としていくかがキーになります。加えて、それらを判断するためには、個々の専門知識も必要となります。そうした企業のニーズに応え、立ち上げられたのが、「バイオマーカー創薬支援事業」なのです。

2006年は、特にファーマコゲノミクス（PGx：P5・6コラム参照）に関する基盤整備を推し進め、2006年11月には国内外で本格稼働、12月にはPGx用検体の保管を開始しています。（検体バンキングサービス、7試験受注、2006年11月24日プレスリリースより）

総合的な支援（トータルソリューション）サービスは、個々の製品やサービスを「個別」で提供するのではなく、目的に合わせて「連携させて」提供するサービスです。個々から連携へ。それが他社にはない、メディビック独自のサービス提供体系です。これらの製品・サービスは、国内外の製薬企業のみならず、研究開発に携わる大学研究機関やバイオ関連企業を対象に、広く展開し、事業拡大しています。

バイオマーカー創薬支援事業

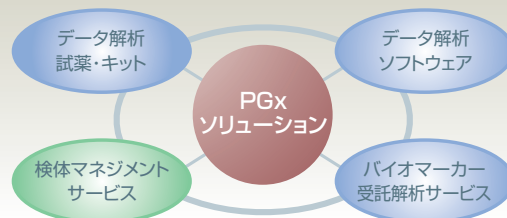
バイオマーカーなどの情報を活用し、医薬品の研究開発を支援する

バイオマーカー創薬支援事業

コンサルティング事業

インフォマティクス事業

PGxトータルソリューションサービス



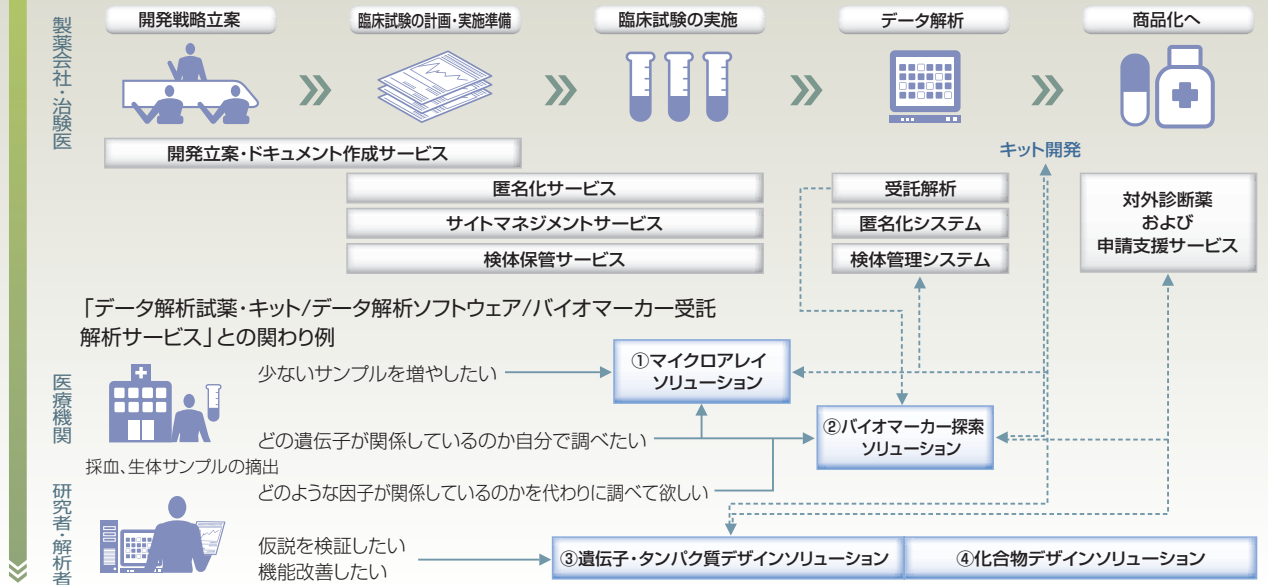
アジアを中心としたグローバル展開



検体マネジメントサービス

神戸市の公的機関（財団法人先端医療振興財団）との共同事業である「検体バンキングサービス」を中心に、PGxを取り入れた臨床試験プロトコルの開発戦略立案に関するコンサルテーションからデータ解析、新薬承認申請の補助業務まで、テラメイド創薬®の時代に向けて変化する創薬開発プロセスを戦略的にサポートしております。

PGx試験における提供製品・サービス 病院からの検体の集配からDNA解析まで全てGLP準拠



データ解析試薬・キット/ データ解析ソフトウェア/ バイオマーカー受託解析サービス

マイクロアレイ解析技術は、創薬をはじめ、疾患発症の原因解明のための強力なツールとして、急速に進化・発展しています。当社は、マイクロアレイ、バイオマーカー探索、遺伝子・タンパク質デザイン、そして化合物デザインという4つのソリューションを基礎研究から応用分野まで広くご提供しております。

- ① マイクロアレイソリューション…………… 微量RNA増幅試薬Ovation™System、マイクロアレイ解析ソフトウェアArrayAssist®、パスウェイ解析ソフトウェア PathwayArchitect™
- ② バイオマーカー探索ソリューション…………… 脂質メタボーム受託解析サービス、プロテオーム/メタボーム/ペプチドーム受託解析サービス、データマイニング受託サービスHealth Monitoring and Optimization™
- ③ 遺伝子・タンパク質デザインソリューション… 遺伝子合成受託サービス、プロテインエンジニアリング受託サービス
- ④ 化合物デザインソリューション…………… フォークスライブラリー化合物カスタムデザイン、化合物合成受託サービス、ケモインフォマティクスソフトウェアadmetis

テーラーメイド

先進国で実現されつつある個の医療 — 国内企業もPGxに着手

個の医療に欠かせないPGxとバイオマーカー

私達が病気になった時に処方される薬は、なるべく大勢の同じ疾患患者に効くように作られています。しかし、薬の効き目（薬効）は体質によって少しずつ異なってくるため、同じ薬を処方されても、人によって薬効は50～70%程度、またはあまり効かない、逆に副作用をもたらす、など違いがでてしまいます。

この違いが生じる原因の1つに、体質に関連する遺伝子の影響が挙げられます。摂取した食べ物が体内で消化されるように、飲んだ薬は肝臓で作られる「薬物代謝酵素」によって代謝されます。そして薬の成分が一定時間、血中に留まることで薬効を発揮します。

薬物代謝酵素の代謝スピードは「速度」で表現されますが、ある薬物に対して代謝が遅い人（poor metabolizer）は、薬の成分が通常より体内に長く留まってしまい、副作用を来すことがあります。一方、ある薬物に対して代謝が速い人（fast metabolizer）は、体内で薬効が発揮される前に速く代謝してしまうため、薬が効かない、または過剰投与で副作用をもたらしてしまうケースがあります。これが個人によって薬効が異なる原因の1つです。

このような薬物代謝酵素の働きを管理しているのが遺伝子なのです。遺伝子は両親から受け継がれた染色体の中にあり、薬物代謝酵素の働きも含め、私達の体の成長や生体の働きを管理しています。ゆえに、遺伝子の影響により同じ薬でも副作用や有効性の出方が個人によって異なるのです。

薬の効き方の違いは遺伝子に起因することが判明し、さらに科学と技術の進歩によって、副作用を抑え個人にとって最も有効性の高い治療—テーラーメイド医療の可能性が見出されました。欧米から提唱されたファーマコゲノミクス（Pharmacogenomics：PGx）は、薬理（Pharmacology）とゲ

ノム学（Genomics）を合わせた造語であり、テーラーメイド医療の実現に欠かせない領域の1つです。PGxは、ゲノム（遺伝子）から薬の動きを予測する科学的な研究領域、概念、テーラーメイド医療のツールであると同時に、個に適した医薬品開発の戦略ツールとしても用いられています。米国食品医薬品局（FDA）はPGxで「適時に適切な患者へ、適切な薬剤と投与量を与えられるようになる」と述べています。例えば、患者さんに薬を処方する前に遺伝子検査を行い、特定薬物に対して副作用が出やすい人、薬効が得られる人、無効な人と、患者さんを層別化し、それぞれに適応する薬や投与量を考慮した処方が可能となります。PGxで医師と患者さんは副作用を回避できるだけでなく、副作用による医療費の増大も抑制でき、社会的に変意義のある医薬品開発のツールなのです。

また、テーラーメイド医療を実現するPGxにはバイオマーカー（生体指標）が不可欠です。ヒトを含め生体内では常時さまざまな生物学的・生化学的反応が起こっており、それが生体機能を支え、生体の状態を示す「指標」となっています。例えば、発熱や白血球の増加は体内の異常を示す徴候です。このように特定疾患の徴候や状態を示す有用なバイオマーカーを探し出せば、疾患の発症予測や治療経過の目安になります。さらに、疾患特有のバイオマーカーを使って新しい治療法を開発することも可能です。

メディビックは、テーラーメイド医療の実現に欠かせないPGxとそれに必要なバイオマーカーの探索支援を提供することで、テーラーメイド医療の実現に貢献します。

国内外のPGx動向 — 先進する欧米、動き始めた国内企業

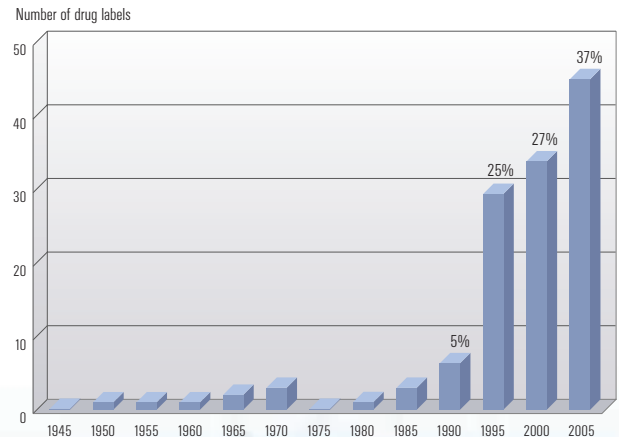
1995年から2005年にかけて、米国ではPGx情報を含むFDA承認薬が飛躍的に伸び、2005年にFDAが承認した医薬品添付文書の37%にPGx情報が含まれていました（右表）。さらに、ヒトの遺伝子やバイオマーカーをもとに新しい医薬品を開発する企業が増加したことから、2005年、FDAはPGxを利用した医薬品申請に関するPGxガイダンス*1を発表しました。

医薬品が認可されるには、企業が規制当局（米国はFDA、日本は厚生労働省に当たる）に医薬品の製造販売に関する承認申請をし、審査プロセスを経て認可が下ります。FDAのPGxガイダンスは、遺伝子やバイオマーカーを含め、PGxを応用して開発された新しい医薬品の承認プロセスを示したものです。そして、日本の厚生労働省もこのようなガイダンスを現在作成中です。

一方の国内製薬企業は、厚生労働省のPGxガイダンスがまだ作成中ということもあり、今までPGxを利用した医薬品開発を静観する傾向がありました。ところが2006年に、中堅から大手の国内製薬企業の数社がPGxに取り組むことを公にしました。また、日本製薬工業協会は独自にまとめたPGx実施に関する指針案*2を年内に公表予定で、PGxを行う環境が少しずつ整備され始めている状態です。

メディビックは、すでに欧米で取り組まれていたテーラーメイド医療の波がいずれ日本にも押し寄せることを予測し、国内でPGxを行える環境基盤を少しずつ整えて参りました。いま、テーラーメイド医療の実現に日本も動き始め、メディビックの事業が本格稼動する時がきたのです。

FDA承認薬の添付文書にPGx情報が記載されていた割合



出典："Personalized Medicine - Today!" Clinical Ligand Assay Society 32nd International Meeting, May 22, 2006. Felix W. Frueh, PhD, Associate Director for Genomics Office of Clinical Pharmacology CDER/FDA.

*1 Guidance for Industry: Pharmacogenomic Data Submission

*2 医薬品の臨床試験におけるファーマコゲノミクス実施に際し考慮すべき事項（案）

メディビックファーマ、抗がん剤の国内臨床試験を開始

海外では卵巣がん、肺がんに対する試験も始まる

2007年1月、創業事業を行うメディビックファーマは、抗がん剤グルフォスファミド（Glufosfamide）の国内第Ⅰ相臨床試験を開始しました。

本試験は、固形がんを対象として、主にグルフォスファミドの安全性評価及び臨床推奨用量の検討を行うもので、終了まで約1年を予定しています。その後は、すい臓がんを対象に有効性の評価を行う第Ⅱ相臨床試験に進む予定です。

グルフォスファミドは、提携先の米国・スレッシュホールド社により、海外で先行して開発が進められており、米国では2006年9月にすい臓がんの治療薬として、米国食品医薬品局（FDA）から希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）指定を受けています。

現在海外で行われているすい臓がんを対象とした臨床試験のうち、抗腫瘍効果については、第Ⅱ相臨床試験（進行性すい臓がんを対象としたゲムシタビン*1との併用

試験）*2の解析結果において、21%の患者さんで「部分奏効」（1名の未確定「部分奏効」を含む）、36%の患者さんですが「安定」という成績が得られています*3。

生存率については、転移性すい臓がんを対象としたグルフォスファミド単独投与による第Ⅲ相臨床試験*4において、BSC（ベスト・サポーターティブ・ケア）群よりは高かったものの統計的な有意差は得られませんでした。引き続き解析作業が行われている前述の第Ⅱ相臨床試験（ゲムシタビンとの併用試験）において、生存率を含めた最終結果が2007年中には公表される予定です。

この他にも2007年1月からプラチナ製剤抵抗性のある卵巣がん、2月から再発小細胞肺癌を対象とした第Ⅱ相臨床試験が開始されています。

メディビックファーマでは、グルフォスファミドに加えて、さらなるパイプラインの拡充も図っています。

すい臓がんについて

すい臓がんは、難治性がんの一つに挙げられ、有効な治療薬が極めて少なく、わが国では、肺がん、胃がん、肝臓がん、結腸がんに次ぐ5番目に死亡者の多いがんです。2005年の死亡者数は22,918名（厚生労働省調べ）と年々増加傾向にあり、10年後には4万人を超えとも予想されています。

*1 「ゲムシタビン（Gemcitabine）」は、すい臓がんの治療薬として日本や米国を始め世界数十カ国で発売されている薬剤で、日本での販売名は「ジェムザール」です。（発売元：日本イーライリリー株式会社）

*2 スレッシュホールド社プレスリリース（2006年12月27日発表）より引用

【参考】海外で行われた、すい臓がんを対象としたゲムシタビン単独投与による臨床試験では、「部分奏効」5%、「安定」39%という結果である。（公表論文 J Clin Oncol 15:2047 1997. Howad A Burris III et al.）

*3 腫瘍縮小効果の評価方法

完全奏効	腫瘍が完全に消失
部分奏効	治療開始前に比べて、腫瘍の面積が50%または最長径の和が30%以上縮小
安定	「部分奏効」とするには腫瘍の縮小が不十分で、かつ「進行」とするには腫瘍の増大が不十分
進行	治療開始前に比べて、腫瘍の面積が25%または最長径の和が20%以上増加

*4 スレッシュホールド社プレスリリース（2007年2月27日発表）より引用

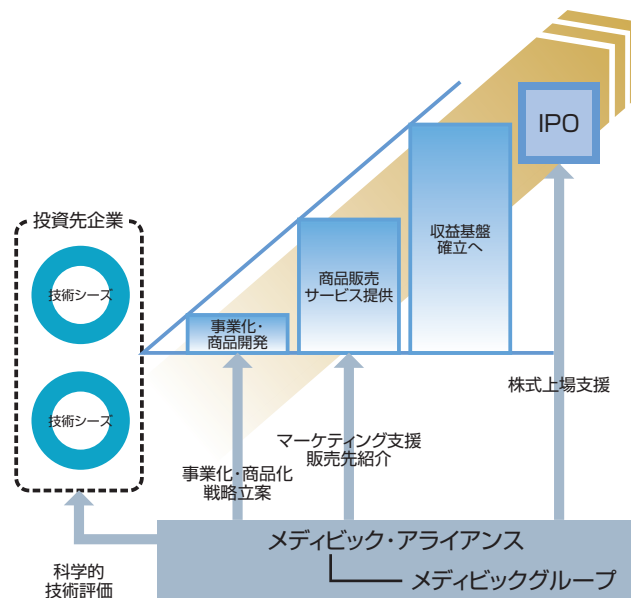
着実に実績を上げ飛躍を続けるプライベート・エクイティ事業

積極的に収益機会を促える

投資・投資育成事業を行うメディビック・アライアンスでは、ライフサイエンス企業を中心とした投資銀行業務を行っています。具体的には、投資、事業育成・支援、上場支援などの投資育成事業、また独自のノウハウを活かしたファンドの組成や投資顧問、M&Aアドバイザーなどを行っています。

2006年は国内のみならず、中国や韓国への投資や提携も積極的に展開しました。投資先のうち4社がIPOを果たすなど売上高において、前年比249.5%の成長を遂げることができました。

メディビック・アライアンスは創業から3期目を終えました。投資実績を踏まえ、ファンド等への投資顧問事業、M&Aアドバイザー等、増加するニーズに対応し、さらに事業拡大してまいります。



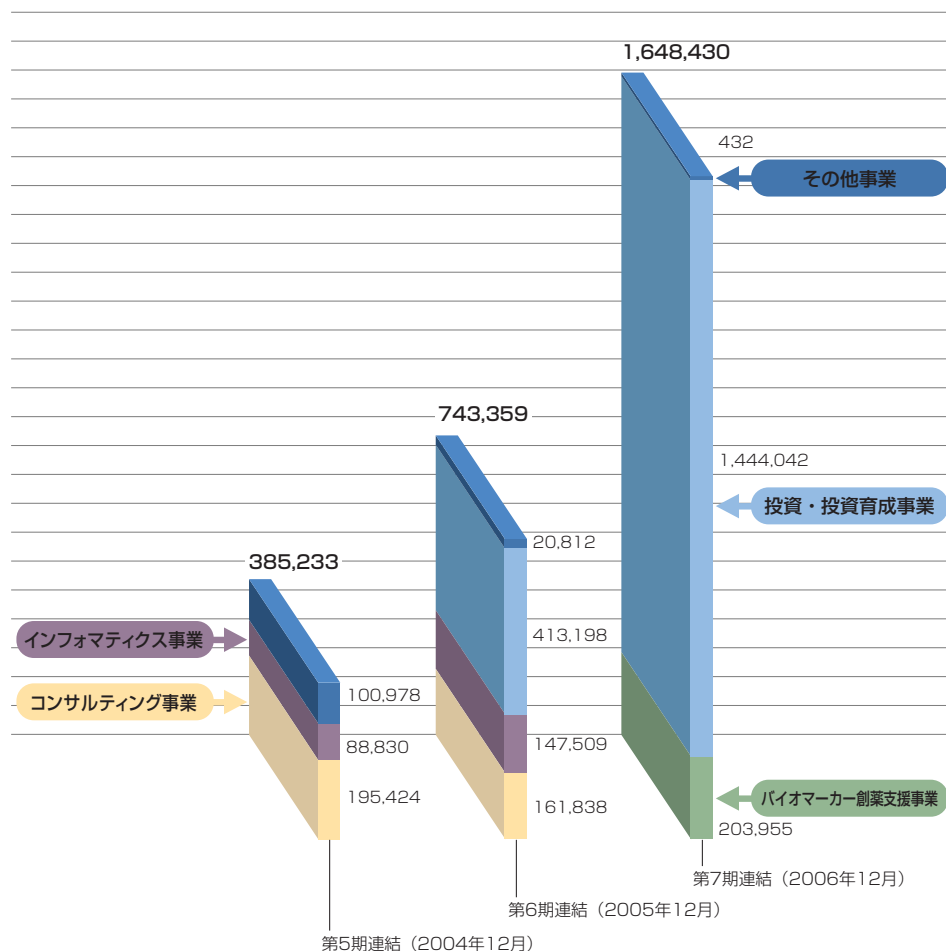
■ これまでの主な投資先 (※ 紫字 はIPO達成企業)

2004年	2005年	2006年
(株)シームス	エッジメディカルテクノロジー(株)	VALLIO TEK CO.,LTD.
(株)リンフォテック	キューオーエル(株)	Digital Genomics,Inc.
(株)ファンドクリエーション	コアフロント(株)	(株)メドジェル
ハイクリップス(株)	(株)アインテスラ	Acucela Inc.
Crystal Genomics,Inc.	(株)アースリソース	ディナベック(株)
コスモ・バイオ(株)	BHK,Inc.	
	WIDE Corporation	

■ 韓国ファンド・中国ファンドを組成

韓国や中国では、ライフサイエンス産業は重要な戦略産業の位置づけで国策レベルで支援されています。そのため、次々と優良な未公開のライフサイエンス企業が成長しつつあります。メディビック・アライアンスでは、2006年に韓国ファンドや中国ファンドを組成するなど、アジアを中心とした高度成長地域の企業に対し、積極的な投資を行っています。

■ 事業別売上高の推移（単位：千円）



第7期営業活動のご報告

■ 主要経営指標の推移

		第5期連結 '04/12	第6期連結 '05/12	第7期連結 '06/12
売上高	(千円)	385,233	743,359	1,648,430
経常損失	(千円)	611,956	411,537	38,642
当期純損失	(千円)	632,462	425,452	203,322
純資産	(千円)	2,019,490	2,280,194	2,319,847
総資産	(千円)	3,482,469	3,273,769	4,079,717
自己資本比率	(%)	58.0	69.7	56.0

● 営業の概況

当連結会計年度（第7期 2006.1.1-2006.12.31）において、当社は、2006年7月3日、持株会社に移行し、商号を「株式会社メディビック」から「株式会社メディビックグループ」に変更いたしました。また、バイオマーカー創薬支援事業を会社分割により新設した「株式会社メディビック」に承継いたしました。

事業区分については、前連結会計年度での区分（コンサルティング事業、インフォマティクス事業、創薬事業、投資・投資育成事業、その他事業）から、「バイオマーカー創薬支援事業」「創薬事業」「投資・投資育成事業」「その他事業」に変更いたしました。

バイオマーカー創薬支援事業では、遺伝子発現解析ソフトの独占販売権を獲得し、販売及びその最新技術を反映したデータ分析サービスの提供を始め

ました。また、PGx試験を総合的に支援できるPGxトータルソリューションサービスの体制を整え、国内外製薬企業への提供を始めました。

創薬事業では、株式会社メディビックファーマを設立し、抗がん剤グルフォスファミドの国内臨床試験の準備を中心に進めてまいりました。同試験は2007年1月に開始いたしました。

投資・投資育成事業では、国内のみならず、中国や韓国への投資や提携も積極的に展開する一方で、投資先のIPO実績を着実に積み重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は1,648百万円、前年同期比で121.8%の増加となりました。また、経常損失38百万円（前年同期比372百万円改善）、当期純損失203百万円（前年同期比222百万円改善）となりました。

● 部門別の概況



バイオマーカー創薬支援事業

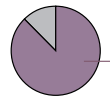
売上高比率 12.4%

バイオマーカー創薬支援事業の連結売上高は、203百万円、前年同期比34.1%の減少となりました。

当連結会計年度より、PGx試験を戦略的にサポートするトータルソリューションの提供を開始し、国内外製薬企業などから7つの臨床試験プロトコルを受注いたしました。

また、遺伝子解析ソフトArrayAssist®の国内独占販売権を獲得しました。同ソフトは、当社が、インドのストランド・ライフ・サイエンス社と共同開発した遺伝子発現解析システムavadis™の、基盤技術が採用されているもので、DNAチップで世界で圧倒的なシェアを持つ、アフィメトリクス社の、GeneChip®対応ソフトとして認定されています。

当連結会計年度においては、当該プロジェクトなどの新規受注を獲得しているものの、継続性のないプロジェクトを削減し、PGxトータルソリューションサービスの提供開始へリソースを集約、体制を確立させたことなどにより、結果として売上高が前連結会計年度より減少となりました。

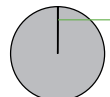


投資・投資育成事業

売上高比率 87.6%

投資・投資育成事業の連結売上高は、1,444百万円、前年同期比249.5%の増加となりました。

前連結会計年度より本格化した同事業は、当連結会計年度で保有する営業投資有価証券は約30社に上りました。また、当連結会計年度において新たに4社が新規上場等を果たしました。



その他事業／創薬事業

売上高比率 0.0%

その他事業においては、大型案件が前連結会計年度に比べ減少したことなどにより、連結売上高は0.4百万円、前年同期比97.9%減少となりました。（※創薬事業は、現在研究開発段階にあるため、当連結会計年度における売上高の計上はありません。）

● 次期（2007年12月期）の見通し

次期の業績見通しにつきましては、連結売上高1,597百万円、経常損失352百万円、当期純損失366百万円を見込んでおります。

バイオマーカー創薬支援事業

PGxトータルソリューションサービスを中心に、より一層の売上の獲得と利益率の向上を図っていきます。

創薬事業

抗がん剤グルフォスファミドの国内臨床試験を中心に進めてまいります。

投資・投資育成事業

引き続き国内および中国・韓国におけるプライベート・エクイティ事業を強化し、また、事業化の推進、マーケティング支援などハンズオンの育成事業にも注力してまいります。

※業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。様々な要因の変化により、実際の業績は本業績予想と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

財務諸表

連結貸借対照表

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当期末 (第7期)	前期末 (第6期)
資産の部		
流動資産	3,183,034	2,112,037
現金及び預金	1,400,038	726,073
売掛金	78,187	430,786
有価証券	291,197	—
たな卸資産	10,930	4,853
営業投資有価証券	1,313,886	945,305
投資損失引当金	△103,165	△24,800
前払費用	8,974	3,227
未収消費税等	3,853	6,385
その他	179,132	20,204
固定資産	896,682	1,161,732
有形固定資産	23,702	47,857
建 物	8,352	7,908
工具器具及び備品	15,350	39,949
無形固定資産	348,263	525,657
電話加入権	144	144
ソフトウェア	2,544	4,983
販売権	—	76,190
化合物利用権	345,534	444,258
その他	40	81
投資その他の資産	524,716	588,216
投資有価証券	303,580	260,164
出資金	510	215,256
関係会社株式	56,805	56,237
関係会社出資金	111,012	—
長期貸付金	11,296	15,327
差入敷金・保証金	40,028	41,071
その他	5,018	158
貸倒引当金	△3,535	—
資産合計	4,079,717	3,273,769

科 目	当期末 (第7期)	前期末 (第6期)
負債の部		
流動負債	1,031,682	182,205
買掛金	2,826	16,489
1年以内償還予定社債	800,000	—
未払費用	63,992	55,824
未払法人税等	92,102	25,021
未払消費税等	1,330	4,229
前受金	12,415	3,703
預り金	1,833	3,231
繰延税金負債	15,785	36,662
その他	41,396	37,044
固定負債	728,187	807,531
社債	—	800,000
長期借入金	720,000	—
繰延税金負債	7,009	7,531
長期前受金	1,177	—
負債合計	1,759,870	989,736
少数株主持分		
少数株主持分	—	3,838
資本の部		
資本金	—	1,438,781
資本剰余金	—	1,972,045
利益剰余金	—	△1,194,671
その他有価証券評価差額金	—	64,094
自己株式	—	△55
資本合計	—	2,280,194
負債、少数株主持分及び資本合計	—	3,273,769
純資産の部		
株主資本	2,295,427	—
資本金	1,580,106	—
資本剰余金	2,113,370	—
利益剰余金	△1,397,994	—
自己株式	△55	—
評価・換算差額等	△10,474	—
その他有価証券評価差額金	△10,474	—
新株予約権	3,600	—
少数株主持分	31,294	—
純資産合計	2,319,847	—
負債純資産合計	4,079,717	—

連結損益計算書

単位:千円、単位未満切捨

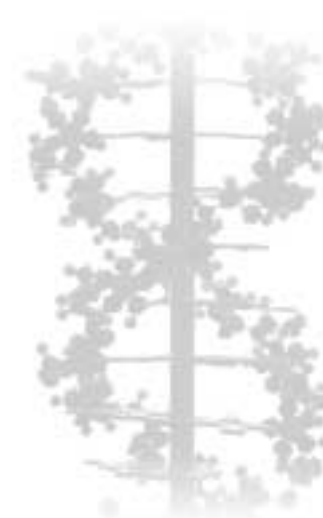
科 目	当期 (第7期)	前期 (第6期)
売上高	1,648,430	743,359
売上原価	732,402	420,948
売上総利益	916,028	322,410
販売費及び一般管理費	912,481	681,702
営業利益又は営業損失(△)	3,546	△359,291
営業外収益	3,921	6,819
受取利息	3,232	452
為替差益	—	2,136
受取助成金等	—	833
有価証券売却益	—	2,937
雑収入	689	460
営業外費用	46,109	59,065
支払利息	876	152
新株発行費	—	3,706
為替差損	6,496	—
投資事業組合等損失	5	6,668
持分法による投資損失	2,744	20,625
支払手数料	—	25,980
有価証券売却損	28,869	—
貸倒引当金繰入額	3,535	—
固定資産除却損	2,295	—
雑損失	1,285	1,932
経常損失	38,642	411,537
特別利益	45,328	855
関係会社株式売却益	—	855
固定資産売却益	45,328	—
特別損失	100,898	—
減損損失	66,666	—
投資有価証券評価損	34,232	—
税金等調整前当期純損失	94,212	410,682
法人税、住民税及び事業税	88,712	15,899
少数株主利益又は少数株主損失(△)	20,398	△1,128
当期純損失	203,322	425,452

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円、単位未満切捨

科 目	当期 (第7期)	前期 (第6期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	282,746	△ 728,391
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 304,772	△ 377,280
財務活動によるキャッシュ・フロー	983,463	65,961
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,888	1,174
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	959,548	△1,038,536
現金及び現金同等物の期首残高	716,073	1,754,610
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	5,610	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,681,233	716,073

当 期 2006年1月1日～2006年12月31日
前 期 2005年1月1日～2005年12月31日



会社の概況 (2006年12月31日現在)

設立 : 2000年2月17日
資本金 : 15億8,010万円
所在地 : 〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル8F
TEL : 03-5510-2407
事業所 : 上海事務所
社員数(連結) : 42名(常勤役員を含む)
主要取引銀行 : 株式会社三井住友銀行 日比谷支店
株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋駅前支店
株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋支店

グループ会社 : (株)メディビック(2006年7月3日新設)
(株)メディビックファーマ
(株)メディビック・アライアンス
アネクス・ファーマシューティカルズ・インク

取締役

代表取締役社長	橋本康弘
専務取締役	小林光
取締役	川井隆史

監査役

常勤監査役	木下郁大
監査役	臼井和郎
監査役	富岡和治

執行役員

執行役員	喜多見浩次
執行役員	野津克樹
執行役員	中江裕樹



<http://www.medibic.com/>

当社はIR活動の一環として、ホームページによる情報発信の充実に努めています。

詳細な事業概要、ビジネスモデルの解説、財務データの適時掲載の他、会社説明会などのIRイベント開催についてもお知らせしています。

ぜひアクセスいただき、ご活用をお願いいたします。

●会社説明会ストリーミング

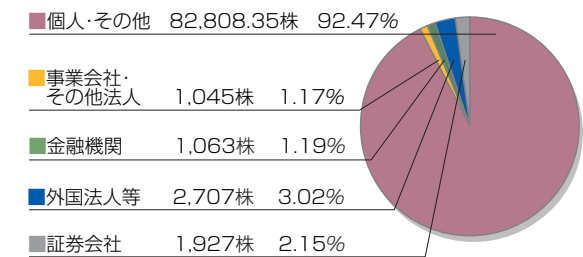
当社ホームページ上にて、会社説明会の様子を動画配信でお伝えしています。経営陣の肉声による詳細な戦略解説や質疑応答を通して、よりわかりやすい形で当社をご理解いただけます。

株式の状況 (2006年12月31日現在)

株式状況

発行可能株式総数	154,944株
発行済株式の総数	89,550.35株
株主数	9,955名

所有者別株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
橋本 康弘	20,195	22.56
藤井 衛	1,130	1.26
チェースマンハッタンバンクジーティー エスクライアンツアカウントエスクロウ	823	0.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	708	0.79
青柳 満喜	650	0.72
マネックス証券株式会社自己	621	0.69
クレディスイスインターナショナル	450	0.50
波多野 美代子	418	0.46
長谷川 忠正	399	0.44
リーマンブラザーズインターナショナルレンディング	390	0.43

資金調達にかかる新株予約権等の状況

銘柄	発行年月	発行総額	累計行使額	行使率	転換価額
2007年満期円建株式会社メディックグループ 転換社債型新株予約権付社債	2004年10月	14億円	6億円	42.86%	88,062.5円

※行使価額については、修正及び調整により変更する場合があります。

銘柄	発行年月	発行総額	累計行使額	行使率	行使価額
株式会社メディックグループ 第1回新株予約権	2006年9月	5億円	4億5千万円	90.00%	(注)
株式会社メディックグループ 第2回新株予約権	2006年9月	5億円	0円	0.00%	(注)

(注) 行使価額については、発行要項に基づき毎週末修正を行っております。

※累計行使額・行使率は、2007年2月末現在の数字となっております。

株主メモ

● 決算期	12月31日	● お知らせ	住所変更、配当金振込指定・変更に必要な各 用紙、及び株式の相続手続依頼書のご請求は、 株主名簿管理人のフリーダイヤル 0120- 864-490 及びホームページ (http:// www.tr.mufg.jp/daikou/tetsuzuki_01. html) にて24時間承っておりますので、 ご利用下さい。(証券保管振替制度をご利用 の株主様は、お取引の証券会社にお申し 出下さい。)
● 定時株主総会	3月中		
● 株主確定基準日	12月31日		
● 株式の売買単位	1株		
● 株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		
● 同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (お問合せ先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)	● 公告の方法	電子公告(当社ホームページ http://www.medibic.com)。但し、やむを得ない事由 により、電子公告によることができない場 合は、日本経済新聞に掲載いたします。
● 同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店	● 証券コード	2369

当冊子についてのお問合せ先

株式会社メディビックグループ 管理本部

本社／〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2大同生命霞が関ビル8F TEL. 03-5510-2407

